

Happy-Hamakan-News (HHN)

浜医看護学 第3巻 第1号

2016年6月号

浜田医療センター附属看護学校

オープンスクール春・・・1P

新入生歓迎会・・・3P

コラム「レンガ職人の話」(三浦麗子先生)・・・5P

2年生の学生フォーラム・・・7～8P

1年生の基礎看護学実習Ⅰ(その1)の感想・・・9～10P

入学式・・・2P

ナイチンゲール生誕祭・・・4P

清掃活動・・・6P



独立行政法人国立病院機構
浜田医療センター附属看護学校
〒697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12
TEL0855-28-7788
mail : kanri-t@hamakan.nh.jp
<http://www.hamakan-nh.jp/>

発行責任者 石黒眞吾
編集責任者 福田明美
編集 田儀千代美、隈部直子、小田川良子
畑中美保、世木幸雄、田中茉緒、崎本美子
山岡富美香、三家本八千代
岩成美樹、松野由香、金山和正

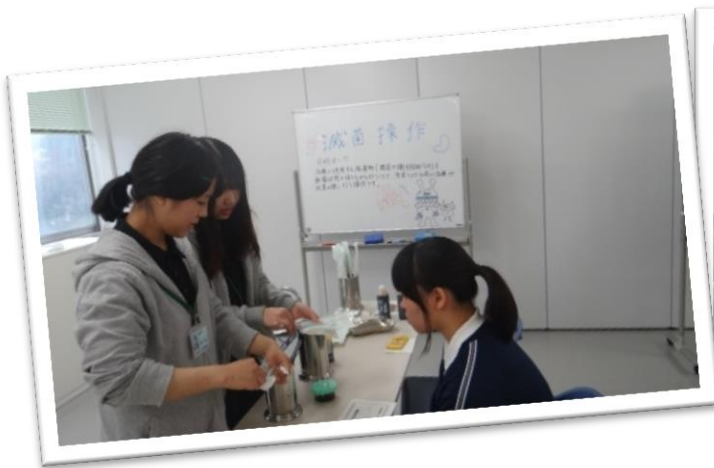


～オープンスクール春～

63期生 山本 政興

オープンスクールに運営として参加して2回目となります。今回のオープンスクールで私は、開会式の挨拶を担当させていただきました。挨拶をする前までは、参加者に「楽しんでほしい、学生にたくさん質問して良い時間を過ごしてほしい、緊張しないでいい」ということを伝えようと考えていました。しかし、いざ参加者の前に立ち挨拶をしようとするとう頭の中が真っ白になり、伝えたいことを伝えることができませんでした。」それでも、オープンスクールは運営委員、スタッフの協力でスムーズに行うことができ、高校生はとても楽しんでいる様子でした。

次回からは、私達2年生が主となり運営を行ってきます。しっかりと準備をして当日には笑顔がたくさん見られ、浜看の楽しさ、学生の親しみやすさや明るさなど浜看の良さが伝わり、看護に興味を持ってもらえるようなオープンスクールにしていきたいです。



62期生 藤原 拓也

今回オープンスクールを行うにあたって、3年生は実習を、2年生は多くの課題やテスト勉強を行いながら、準備と練習を行いました。時間がない中での準備でオープンスクールを迎え、不安もありましたが当日は、参加者に笑顔が見られ成功させることができたと思いました。

3年生がリーダーとなって行うオープンスクールは今回が最後で、夏のオープンスクールからは2年生が中心となって運営します。これまでの3年生の動きを見て、どのように準備するか、当日どのように動くかなど勉強できたと思います。次回のオープンスクールでは、2年生がスムーズに運営していけるように、アドバイスや相談に乗りながらサポートしていきます。



～入学式～

64 期生 静間 翔己



こんにちは!!

私たち 64 期生が入学して早くも 1 ヶ月が過ぎました。
64 期生は男子が 6 人、女子が 31 人のクラスです。



クラスの多くの方は浜田に来たばかりで浜田のこともよく知らなかったり、今まで学んだこともない専門的な内容の授業で、まだ、あまり学校生活に慣れてはいません。

しかし、講師の先生方や学校の先輩方はとても優しく、毎日が楽しいです。昼休みや放課後にはクラスのみんなや先輩方とバレーをしたりして、クラスの仲も先輩方との仲もとても良くなったと思います。

また、宿泊研修やスポーツ大会、学校祭などこれから楽しみなことは沢山あります。

これからもっと先生方や先輩方、クラスのみんなとの仲を深めていきたいです。

そして 3 年間、看護について専門的に学び、64 期生全員が立派な看護師になれるよう頑張ります!!
よろしくお願いします!!



～新入生歓迎会を終えて～

62期生 市川 穂乃佳



入学式後、新入生との親睦を深めるために、学生自治会主催の新入生歓迎会を行いました。新入生歓迎会では、全学年混合の各グループに分かれてお菓子やジュースを食べながら、学校の授業の内容や実習の内容など看護学校ならではの話題で盛り上がりました。

また、運動部や手話部などのクラブ活動の紹介を行い、各学年の出し物では2年生は学校に関するクイズをし、3年生はダンスの披露や学校紹介のムービーを流しました。1年生は入学式直後という事もあり緊張した様子でしたが、上級生との交流によって、少しずつ笑顔が増え始め、学校の様子を知る機会となったのではないかと思います。



今後、学校祭など全学年が協力して行う行事が始まりますが、この新入生歓迎会で深めた親睦を学校全体の力に変えて盛り上げていきます。



～ナイチンゲール生誕祭～

2年生 田中 麻衣 松村 妃菜

ーナイチンゲール生誕祭を企画・運営してー

今回初めてナイチンゲール生誕祭という大きな行事を企画・運営することになり、3月の終わりから少しずつ準備を始めていました。準備段階では、指示を出すことや先生方との調整が上手くいかないことが多かったのですが、前日の講演会場の準備は、クラスに呼びかけ、全員で協力してできました。課題もありますが、ナイチンゲール生誕祭を終えふり返ってみると、自分たちの成長を感じました。

午前中の講演では「三重の関心」についてのお話がありました。看護に大切なのは、病気に対する理性的な関心（知）、病人の世話と治療についての技術的な関心（技）、病人に対する心のこもった関心（心）ということです。まだ看護について学んでいる途中である私たちですが、日々の生活の中でこれらの関心を持つことを意識し、「知」・「技」・「心」を磨いてきたいと思います。

午後からは講演で学んだことを意識しながら、お世話になっている浜田医療センターや偕生園で清掃活動を行いました。そこで普段使用されている車椅子などに実際に触れ、食べかすや埃などが付着していることに気付きました。このことから、患者さんや利用者さんに快適に生活して頂くために清掃活動を行い、普段から使われている物品を清潔に保つことが必要であると感じました。

午前の部：特別講演 テーマ「看護を学ぼう！ー今再び、ナイチンゲールー」

講師 三浦麗子先生



～レンガ職人の話～

倫理学講師 三浦 麗子 先生

NHKの朝ドラ「あさが来た」は高視聴率を持続したまま終わりました。江戸末期から明治、大正の時代に活躍する主人公「白岡あさ」(広岡浅子がモデル)の生き方は、女性のみならず男性にも注目されました。

主人公「あさ」のセリフで印象に残っているものの一つに九州の炭坑の話があります。蒸し暑い中、薄暗い危険な炭坑に入り石炭を採掘する仕事にやりがいを見出せない坑夫達に話す言葉です。「この黒い石である石炭が燃え、皆の夢を乗せて丘蒸気(汽車のこと)を走らせる。それを皆さんが掘っている。大きな仕事の一部ですが大切な仕事をしているのです。」こう話し、わだかまりのあった坑夫達の心をつかんでいきました。

イソップ寓話にも「レンガ職人」の話が出てきます。旅人が広場でレンガを積んでいる職人たちに尋ねました。「何をしていますのですか？」

職人A：見ての通りレンガを積んでいるんだ。わかるだろう。

職人B：壁を作っている。

職人C：教会を作っているんだ。

職人D：人の心を癒す空間を作っているんだ。

もうお分かりのように、4人の職人はレンガを積むという仕事を違ったレベルでとらえています。職人Dは、仕事に社会的意義を見出し仕事のやりがいにもつながっています。「あさ」が坑夫達のやりがいを引き出した話と重なります。

さて、看護師の清拭場面に置き換えて考えてみましょう。

看護師Aさん：体を拭いているんです。

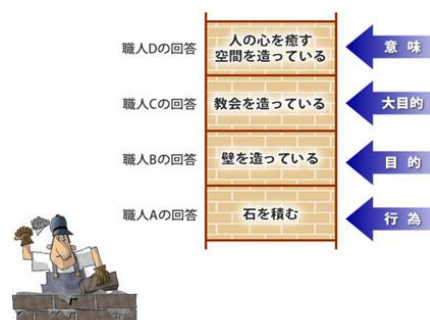
看護師Bさん：身体を清潔にしています。

看護師Cさん：血液循環の促進、新陳代謝や老廃物の排泄の促進です。

看護師Dさん：入浴中に実感するくつろぎや爽快感をもたらし、食欲増進にもつながり、さらには患者さんの生きる力を引き出しています。

Cさん、Dさんのレベルは清拭の目的、その意義や価値までもとらえています。清拭は日常的な看護技術です。身体が清潔になり血行が促進し、食欲がわき、それが患者さんの闘病意欲につながるとしたら看護師の取り組み姿勢も違ってきます。看護の意義を見出すと、ルーチンケアが心のこもったケアに変わります。“たかが清拭、されど清拭”です。

どのような仕事でも、その意義や価値の捉え方で、やりがいや働きがいにつながるというお話です。臨地実習で悩んでいる時、ちょっと立ち止まって考えてみると面白いですね。

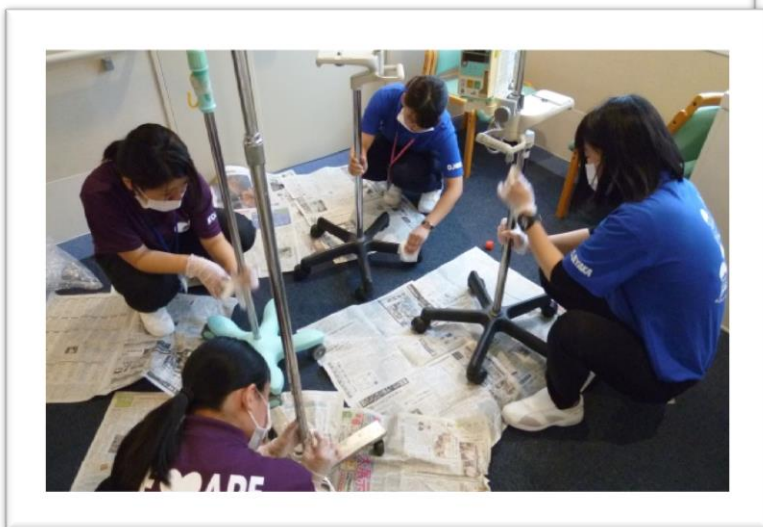
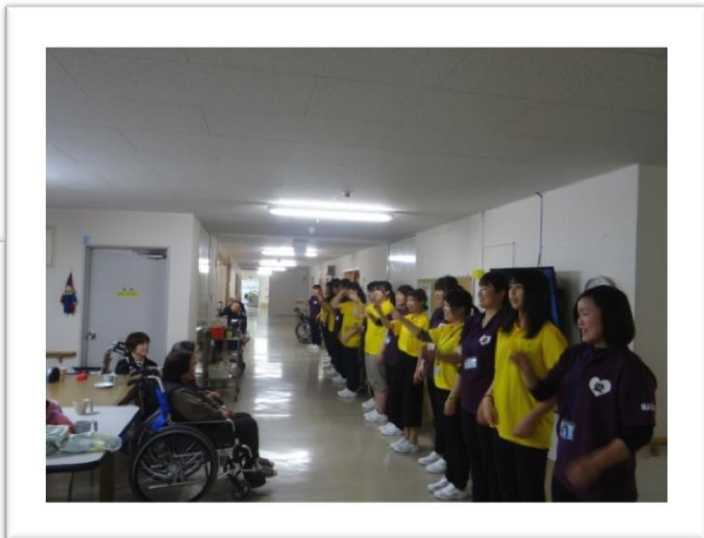


ナイチンゲールの生誕（看護の日）に合わせて、当校でもナイチンゲール生誕祭を開催しました。

開催目的

フローレンス・ナイチンゲールは、1853年にクリミア戦争に従軍しました。その際ナイチンゲールは、野戦病院の不衛生な環境に目をとめ、清掃を始めることなど病院内の環境の改善に取り組みました。軍人が傷病兵の看護管理をしていたころの死亡率は42.7%であったものが、ナイチンゲールが赴任した6か月後には2.2%に激減しました。さらに、看護とは患者の生活環境を清潔に務めることによって患者の回復過程の促進につながることを実践し、証明しました。そのナイチンゲールの精神を私たちが受け継ぎ、看護を志す者としての意識を高めることを目的としています。

午後の部：清掃活動（浜田医療センター、偕生園）



～学生フォーラム～

今年も5月20日（金）に、岡山県で『平成28年度 中国四国グループ内看護学生フォーラム』が開催され、学校の代表として2年生が参加しました。フォーラムの主催は独立行政法人国立病院機構中国四国グループで、「グループ内病院附属看護学校の紹介を通して相互理解を深め、帰属意識を高める。国立病院機構の提供する医療・看護についての理解を深める」という目的の下、毎年開催されています。

今年も、看護学校（助産科含む）9校から560名の学生が参加しました。これだけの仲間が集まる機会は大いに貴重であり、視野が広がり、とてもよい刺激になりました。



[2年生38名です。朝6時に岡山へ向けて出発しましたが、みんな元気いっぱい！]



[自分たちが就職を考えている病院や、興味がある病院のブースに説明を聞きにいきました。各病院のグッズもいただきました。]



[2年生を代表して3名がステージに上がり、当校の紹介をしました。少し緊張しましたが、大きな声で元気に浜田と私達の学校のことを説明できました(^O^)]

2年生の声(ふり返り用紙から抜粋: 1. 学校紹介を聴いて 2. 病院説明を聴いて)

松浦 和美

1. 今回の学生フォーラムを通して、グループ内病院附属看護学校の紹介を聞き、学校ごとの特色や、地元地域等についても、今まで知らなかったことを知るいい機会となりました。また、他学校の人とも交流を深めることができました。

2. 国立病院機構の医療・看護の定義を元に、各病院、分野（疾患）ごとに、どういった理念、看護を提供しているのか、知ることができました。また、国立病院機構だからこそのネットワークだったり、災害時の医療も、他よりも一歩先を進んでいるんだなと思いました。

岡本 さくら

1. 医療センター附属の看護学校でも、様々な学校があり各学校に特色がありました。実習先の病院とも連携がしっかり取れていたり、同じ名前の行事でも学校により違いがあり、こんなことを行うのかと驚いた学校もありました。どの学校も生徒がいきいきしており、とても良いなと感じました。

2. どの病院も患者に最善の医療・看護を提供しており、また身体面だけでなく、患者が安心・安楽な入院生活が送れ、また患者の気持ちを理解した医療や看護を行うことに努めているのだと思いました。患者を思いやりながら精一杯のことを提供しており、素晴らしいなと感じました。

高尾 瑞希

1. 以前学会で山口県に行った時にも病院の説明を受けましたが、看護学校の個々の特徴を知ることができなかったので、今回の学生フォーラムでは、様々なことを知ることができたので、帰属というのはこういうことか、と思いました。また、浜看との違いを知ることや同じことを知ることができて、よい機会になりました。

2. 個々に病院の紹介を聞いたので、様々な専門の病棟があることを知ることができました。また、こだわりなどを聞いて、すごいな～！と思いました。中国地方だけでなく、四国地方の学校のことを知ることができてよかったです。改めて医療や就職先について考えなければと思いました。

後藤 志穂

1. 他の看護学校の発表を聞いて、その学校の特色や良い所、また個性などを理解することができました。さらに看護の勉強や技術面だけでなく、部活動にも力を入れて頑張っている人がたくさんいることを知り、とても刺激を貰えたと、自分ももっと頑張ろうと思えました。私たちの発表もとても良い物だったと思うので、お互いの学校について理解が深められたのではないかと思います。また、国立病院というグループ内に属しているのだということを今回の学生フォーラムを通じ改めて意識できたと思います。

2. 国立病院機構の説明を聞き、幅広い医療分野で専門性の高い技術や知識を習得できるような卒後教育が考えられていたり、キャリアアップ体制が整っていることを知りました。また、看護においては急性期看護・災害看護・重症障害児の看護・神経・筋難病患者の看護・精神障害者の看護・結核患者の看護など、より専門的に学べることが理解できました。

佐藤 文哉

1. 各学校の規模や環境には多少の違いはありますが、宣誓式やナーシングセレモニーなど、看護に対する思いは同じであり、いずれ同じ職場で働く仲間であると感じました。

2. プリセプターシップ・パートナーシップで新人看護師への支援体制、国立病院機構に属する病院間での移動、大学へ進学する際の休暇制度など、一人ひとりに合った環境、目的に沿った状況がつかれます。これらの制度のおかげで、各看護師が主体的に行動することができます。災害が発生した場合、DMAT、DPAT が派遣され、被災地に必要な治療、事務職を行うことを知ることが出来ました。

～基礎看護学実習 I (その1)の感想～

基礎看護学実習 I は、その1とその2で構成されています。今回1年生が行った(その1)の実習では、入院患者の生活環境と環境が及ぼす影響について学びました。

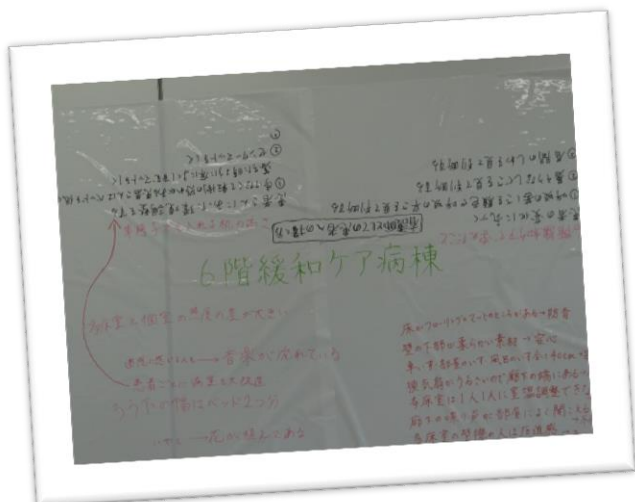


竹下 紘大

今回の実習では、目的として定めていた事以外にも様々な体験で見学ができて、とても充実した実習になったと思います。また、今回の実習でわかった多くの課題を次の実習では改善できるようにしたいです。

青木 優芽

入学して初めての实習で緊張もありましたが、たくさんを学ぶことができた2日間でした。非言語的コミュニケーションを活用してコミュニケーションをとることができ、また来年の実習に向けて知識や技術を身に付けていきたいです。

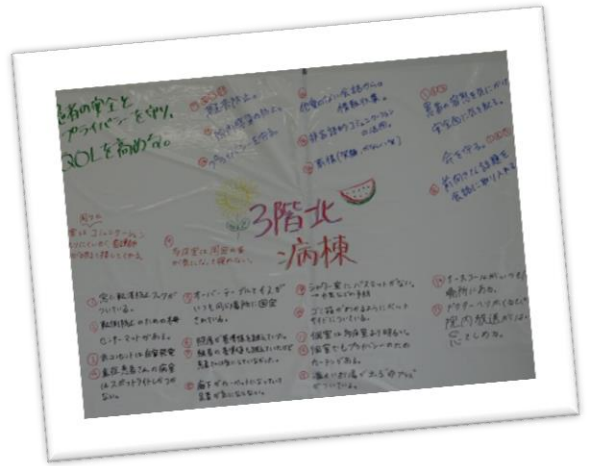


久村 碧

最初はコミュニケーションをとることが難しかったですが、とてもためにたることが多くて勉強になりました！

高橋 明里

始めてだったけど、緊張はしてなかったです。
たくさん話して楽しかったです。

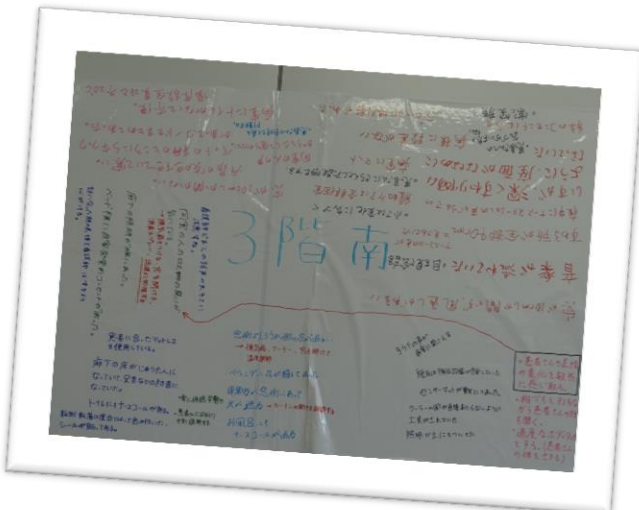


松浦 亜梨紗

最初は緊張しっぱなしでしたが、患者さんとたくさんコミュニケーションできて楽しかったです。

山上 萌菜

全てが初めての経験でつらいことやわからないことばかりだったけど、たくさん学ぶことができたので、この経験を活かしていきたいです。



原 楓華

患者さんとコミュニケーションを取る中で学べるものが沢山ありました。次からの実習では、今回学んだこと、指導者さんにももらったアドバイスを活かしていきたいです。

今後の予定

7月13・14日	1年生の宿泊研修
7月16日	島根県看護協会看護 学術集会3年生出席
7月22日	終業式
7月30日	夏のオープンスクール
8月31日	始業式
10月12日	特別推薦入学試験
10月15・16日	学校祭
11月10日	スポーツ大会
12月7日	ナーシングセレモニー
12月22日	終業式
1月5日	始業式
1月19日	一般入学試験
3月3日	卒業式



編集後記

今年は春先までインフルエンザが流行し、手洗い・うがい・マスクの着用などの感染対策が大変でした。そのような中で、4月6日に37名の新入生を迎えました。学校に新しい風が吹きこみ、皆気持ちも新たにがんばっています。3年生は4月から本格的に実習が始まり、合わせて国家試験の対策も行うなど大忙しです。梅雨に入りはじめじめして大変な季節ですが、まずは実習を乗り越えてもらいたいです。7月には新1年生の宿泊研修があります。その様子は次号でお伝えしますので、今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします。

表紙／前教育主事 中田佳代子 「夏」



独立行政法人国立病院機構

浜田医療センター附属看護学校

〒697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12

TEL 0855-28-7788

mail : kanri-t@hamkan-nh.jp

<http://www.hamakan-nh.jp/>